

来て

Kite

Mite

見

Niigatakenritsudaigaku

新潟県立大学!



地域振興は人づくりから— 地方に根ざし、世界にはばたく新潟県立大学

University of Niigata Prefecture

新潟県立大学広報誌

2012.3 No. 6

新潟県立大学ニュース



CONTENTS

大学自慢	2
新潟県立大学生の秘密	3
男子学生がんばる!	4
女子学生負けてません!	6
外国語を学ぼう	7
講義・実習等の紹介	8
コラム・図書館紹介	10
サテライト	11

■新潟県立大学の基本理念

○国際性の涵養

東アジアをはじめとする世界の人々との社会的・文化的交流を促進し、グローバルな視点からの教育研究を進めます。

○地域性の重視

郷土の自然・文化への理解をもって地域づくりや地域の共生を担う人材を育成し、地域社会に開かれた大学を目指します。

○人間性の涵養

豊かな人間性を培うために、学生一人ひとりに対してきめ細やかな教育を行い、学生同士が切磋琢磨し学び合う環境をつくります。

■学部・学科構成

男女共学 四年制

国際地域学部	国際地域学科	入学定員160名
人間生活学部	子ども学科	入学定員 40名
	健康栄養学科	入学定員 40名

大学自慢

Pride of UeND

新潟県立大学のここがステキ! ということで、このページでは、学生、教員、生協の方と学内で生活している異なる立場の3人に、大学の良いところ、大学での楽しいことなどを尋ねてみました!

人間生活学部

山本実央

A1 アットホームな雰囲気があるところですよ! 新潟県立大学は他大学と比べると随分小さいですが、その分友達はもちろん、教員との関わりもより親密な気がします。

A2 友達や先生方との関わりの中で、色々な価値観に触れ、以前より自分自身と向き合う時間が増えたように思います。大学に入ってから、アルバイトを始めました。社会勉強も兼ねていますが、何より自分でお金を貯めてお出掛けするのが楽しいです! 大学生って感じします(笑)

A3 大学生活そのものが楽しいですが、明るく愉快的な学科の皆という時やサークル活動をしている時が特に楽しいです! 私はアカペラと吹奏楽のサークルに入っています。サークルに入ると他学科の友達とも仲良くなれますよ〜♪



MIO YAMAMOTO

Q1 新潟県立大学の長所

Q2 新潟県立大学に来て変わったこと、または学生の印象

Q3 楽しいことまたはおススメなことや物



国際地域学部 教授

黒田俊郎

A1 少人数教育だと思います。学生定員の割に教員数が多いので、贅沢に少人数授業が味わえます。私が学んだ大学なんて、1学部1000人は優に超えていました! まあそれはそれで砂漠を渡るキャラバンのような自由と孤独がありましたけど...

A2 全体の印象はおとなしく、真面目。具体的に知っている学生の印象はルーズでアクティブ。去年の夏、ポスニアに行ったときは、皆放し飼いのできる学生だったので、心おきなく美味しいワインをたくさん飲みました。

A3 (登山がお好きだときいたので、おススメの登山コースを聞きました。)気楽に行けて抜群なのは、角田の灯台コース。海拔0メートルからの上り下り、途中目に飛び込んでくる佐渡に沈む夕日は格別です。



TOSHIRO KURODA

生協食堂部

鈴木恵子

A1 地域に溶け込んでるところ。食堂でも、地域の皆さんと学生さんが協力して作ったお米を提供してたね。学生と地域との関わりも強いと思う。

A2 あいさつがきちんとできる学生が多いね。食堂が混んではいる時も順番にまっすぐ並んでいるから、行儀のいい学生っていう印象もあるよ。

A3 食堂メニューのおススメは、自分の好きな料理を好きな分だけ食べられるビュッフェだね。バランスのよい食事ができるように、いろんな料理を出しているよ。毎週水曜日は「ケーキの日」でケーキが1個100円で食べられる。勉強で疲れた時にでもいいね。新入生の皆さん、おいしいご飯を作って待ってるよ。



KEIKO SUZUKI

秘密 Secret

昨年末、新潟県立大学生にアンケートにご協力いただき、みなさんの学生生活について調査しました！早速見ていきましょう。



Q1 どうして新潟県立大学に来たのですか？

人間生活学部 子ども学科

1位	新潟にあるから	34%
2位	他の国公立大学と併願ができるから	24%
3位	各種資格が取れるから	21%

国際地域学部 国際地域学科

1位	新潟にあるから	31%
2位	英語に力を入れているから	23%
3位	他の国公立大学と併願ができるから	21%

人間生活学部 健康栄養学科

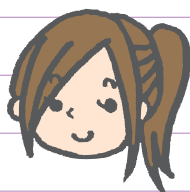
1位	自分の興味、関心に合っていたから	28%
2位	新潟にあるから	28%
3位	各種資格が取れるから	23%

ランキングを見ると、新潟県立大学の特徴がよくわかります。どの学科でも上位に挙がったのは、「新潟にある大学だから」という回答でした。新潟県立大学は、新潟県に貢献する人材育成のため、県内出身の学生の入学金が半額になるという制度が設けられています。そのこともあり、地元貢献しようと努力する学生が集まったのです。国際地域学科では、英語はもちろん、交流も深いロシア・

中国・韓国についても学べるということが魅力のようです。子ども学科では、幼稚園教諭などの資格が取得できます。隣に県立幼稚園があり、密度の高い実習ができるのも魅力のひとつです。健康栄養学科は、卒業と同時に各種資格が取得できます。また、少数意見で、「男子学生でも栄養の勉強ができる」という声がありました。男女共学であることで、男子学生の学びの幅も広がったようです。

Q2 あなたが女子学生、または男子学生でよかったことはなんですか？

女子



- ★ 洋服やメイクなどのおしゃれができる
- ★ 女子が多く、たくさんの友達ができる
- ★ 女子会プランで安く食事ができる

新潟県立大学の女子はとてもお洒落です。たくさんのおしゃれ女子に囲まれて、切磋琢磨の日々を送っています。

男子



- ★ 女子の友人がたくさんできた
- ★ 男子は少人数なので重宝される
- ★ 顔をよく覚えてもらえる

女子が多くて友達が増えたのは、女子だけではないようです。新潟県立大学の男子同士は、学部を越えた付き合いがあり、みんながみんな仲が良い、という印象です。

男子学生 がんばる!



TOMONAKI
SAKAI



国際地域学科3年 阪井友亮

私は学生団体夢カプロジェクト(夢プロ)の代表をしています。連花祭(れんがさい)では、夢プロ史上最大のイベントを手がけました! それは、Lip Dub(リップダブ)です。詳しくはYouTubeで「UNP Lip Dub」と検索してみてください。動画の通り、このイベントにはたくさんの方が参加し、すごく盛り上がりました。多くの学生を繋ぐきっかけをつくり、夢と希望に満ち溢れた活動をするのが夢プロなのです(^O^)/ 私たちの大学は女子が多く、男子の数が少ないです。この事実は、我々男子からしたら、切なかったりもします。しかし、だからといって

静かに教室の隅にうずくまっている男子は新潟県立大学にはいません!みんなイキイキと輝いています。男子同士はすぐ仲良くなるし、結束も固い! 学年の枠を越えてもサークルや部活で交流はかなりあります。さらに新潟県立大学男子は個性派が多く、いろいろな人がいます。このことは、Lip Dubの映像を見ていただければわかると思います。行事でも男子の盛り上がりはすごいし、サークル長になってサークルを引っ張っているのも男子が多いです。新潟県立大学は楽しいところです。だから少しでも興味をもってくれたら嬉しいです。

国際地域学科3年 丸山誠也
(教職課程受講者)

【やりがいのある日々を楽しもう!】

「99%が辛くても、残りの1%の感動がその99%の辛さを越えたとしたら、それは意味のあることだったと言える」と言った仲間がいます。私たち教職課程のメンバーは、昨年の秋新潟県立大学初の教育実習に行ってきました。慣れない生活でくじけそうになっていたそんな時、教職の仲間からの励ましのメールが。それは私を動かす原動力となりました。そして実習最終日には、担当クラスの生徒たちからの合唱のプレゼント。これには私も人生で初めての嬉し涙を流しました。辛いことを頑張ったその先には、必ずご褒美が待っています。そんなご褒美のために頑張る、そんな日々を共に送れる素敵な仲間がたくさんいます。

SEIYA
MARUYAMA



SHINGO
IMAMI

教
員
の
横
顔



国際地域学科 教授
木佐木哲朗

Tetsuro Kizaki

鹿児島出身で東京を経て新潟在住19年になりました。日本・世界各地の様々な文化を通して人間を考えるという文化人類学を専攻しています。色々な人に出会い、出来ればお酒を飲みながら対話を重ねたいと思っています。



国際地域学科 教授
後藤岩奈

Iwana Goto

中国語を担当しています。専門は一応、中国現代文学ということになっています。学生の皆さんには、中国の言語、文化、歴史と向かい合う中で自分を見つけ、何かを創(つくり)出して欲しいです。そのため支援をします。



**RYO
KUBANA**

子ども学科1年 桑原 亮

子ども学科は、保育や幼児教育はもとより、援助方法、子育て支援など子どもだけでなく、子どもを取り巻く社会、養育者のことも学んでいきます。子どもと関わっていくなかで、自分自身の価値観や判断を一度確認し、それを崩したり、強化していくことがとても楽しいです。子ども学科は、私自身について知り、知り得たことをいかに子どもや大人に伝えていき、成長の可能性が高い幼児期にどう生かしていくかを学べる所だと思います。

また、保育の上で、女性だけでなく男性も欠かせません。子どもの発達は両者が援助することでより発達していきます。みなさんが入学し、子どもについて共に学べていけたら、嬉しいです。

国際地域学科2年 今井翔吾
(国際交流インストラクター)

私は、入学当初から、「国際交流インストラクター」という活動をしています。国際交流インストラクターとは、世界の現実・問題や、異文化理解などのテーマを自分たちで設定し、それらについて調べ、小・中・高校などに出向き、WS(ワークショップ)をひらき、このテーマについて彼らと一緒に考えていく、というものです。二年目となる今年は全編英語で高校生向けのWSを催しました。男子のメンバーは少ないのですが、男女仲良く、日々試行錯誤しながら良いWSを作り上げようとしています。準備はとても大変ですが、実際派遣先に行き、生徒たちとともに最高のWSを作り上げた時は、大きな達成感や充実感が味わえます。とてもやりがいのあるこの活動、皆さんもぜひやってみませんか?

健康栄養学科1年 鳥羽宏司

「管理栄養士になりたい!」

その夢を叶えるために大阪からはるばる新潟に来たわけですが…男がおらん! いやわかってました。栄養系の学科に男子が少ないことは。しかしだからと言って孤独を感じている男子学生は一人もおらず、みんなで楽しく充実した大学生活を送っています。ですから心配はいりません。「男子なのに栄養なの～」と言われる時代を共に終わらせましょう。一年生では、栄養系の専門的な授業は少ないですが、総合演習I(基礎)という授業では、自分の食事調査や1日1800kcalの献立作成するといった勉強もします。楽しそうでしょう?! というわけでみなさん、私と一緒に新潟県立大学で管理栄養士を目指しましょう。

**KOJI
TORI**



**Bethany
Mueller Iyobe**

Hi! I'm originally from the USA but have been in Japan for many years. I love my job, especially —interacting— with students and watching them learn. Hope to meet you soon!

国際地域学科 講師
伊與部, ベサニー マラー



**Tomoichiro
Aoki**

二十年以上銀行に勤めてから大学の教員になりました。本学では経済や金融に関連した科目を中心に担当し、国内外で企業の現場をみてきたキャリアを生かしながら、講義や研究に取り組んでいます。

国際地域学科 准教授
青木 知一郎

女子学生 負けてません!

UNPGIRLS

ここでは、新潟県立大学で輝く女子学生を紹介します! 自分の夢や目標、やりたいことに向かって日々邁進する素敵な女性がたくさんいる新潟県立大学のなかでも、まだまだ大学生になりたてである1年生の2人にインタビューしてみました! 新潟県立大学に入ってみてどう感じたか、新潟県立大学ってどんなところか、聞いてみたいと思います!

Q:自己紹介をお願いします。

A:国際地域学科1年の野島萌子です。国際問題研究会に参加しています。千葉県出身です。開発援助系の問題に興味があって、新潟県立大学のこの学部を選びました。

Q:普段はどのようなことを勉強していますか?

A:1年生はとにかく英語の授業がたくさんあります。少人数でネイティブの先生に教えてもらえるので「生きた英語」が身につきます。

Q:いつもどのような生活をしていますか?

A:週3~4くらいでバイトをしています。また、学外で震災復興のプロジェクトに携ったり、新しいサークルの立ち上げにむけて日々奮闘中です! ピアノが大好きで、空き時間にはよくピアノ練習室に行っています。

Q:1年間の大学生活での一番の思い出を教えてください。

A:国際地域学科の忘年会を企画したことです。

77人の人が集まってくれて、私自身も友達が増えたと、みんな楽しんでくれたのが、今でも印象に残っています。

Q:大学で一番好きな場所を教えてください。

A:SALC(セルフ・アクセス・センター)です。英語を話せる先生が常駐していて、英字新聞や英語の本(ロシア語や中国語、韓国語など)があり、飲食をしながら、気軽に語学を楽しめます。行くといつも誰かしら友達がいるので、大好きです。

Q:最後に、これから新潟県立大学に入学してくる後輩に向けたアドバイスをおねがいします。

A:新潟県立大学は、1学年250人以下という、とても規模の小さい大学です。そのぶん、学生同士の仲がよくいい雰囲気なので大学生活を送れます。特に国際地域学科では、2年生から4つのコースに分かれ、個性的でおもしろい先生たちと一緒に自分の勉強したい分野をとことん学べます! ぜひ来てください!



MOEKO
NOJIMA

HIJIMI
SYUMARI



Q:自己紹介をお願いします。

A:健康栄養学科1年の比地朱鞠です。栃木県の出身です。軽音サークルでドラムを叩いています! 管理栄養士の資格をとるために、この大学を選びました。

Q:普段はどんなことを勉強していますか?

A:専門科目だけでなく、英語の授業もあります。課題も多くて大変ですが、他の大学では学べない本格的な英語の学習ができて楽しいです。

Q:普段はどのようなことをしてすごしていますか?

A:サークル活動や、アルバイトをしています。お昼は学生食堂で友達と楽しくすごしています。健康栄養学科ということもあり、みんなお菓子作りなどがうまく、それぞれが作ったケーキやクッキーを持ち寄り、美味しく楽しい昼休みです。

Q:1年間の大学生活での一番の思い出を教えてください。

A:蓮花祭です。みんなで協力して模擬店をだしたり、サークルのライブで演奏を披露したり、とても楽しかったし、友達との仲も深まりました!

Q:いちばん困ったのはどんなときでしたか?

A:雪の中の通学ですかね~。新潟に来て、雪の多い生活を体験してみて心が折れました。笑

Q:これから、新潟県立大学に入学してくる後輩にアドバイスををお願いします。

A:新しい大学なので、わたしが受験生だったときも、情報が少なく、どのような学校なのかわからないことが多かったです。ですが、少人数分、教員や職員の方のきめ細かいサポートを受けられるし、学科を越えて、たくさんの人と知り合えました。新潟県立大学に入るととてもよかったと思っています。楽しい毎日がまっていると思うので、ぜひ来てみてください!

ありがとうございました!

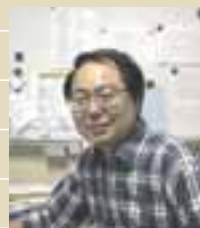
教
員
の
横
顔



国際地域学科 講師
茅野潤一郎

Junichiro Chino

英語のリスニングでは、学習用に調整された音源を使うことが一般的です。しかし、実社会で飛び交う英語が聞き取れずに苦労したという経験をした人も少なくないでしょう。この「過保護なリスニング」の妥当性の検証が近年の研究テーマの1つです。



国際地域学科 教授
櫛谷圭司

Keiji Kushiyama

昨年4月に着任しました。それまで25年も大規模な大学にいたので、まだときどき戸惑いを感じます。専門は人文地理学。最近では中国など東アジアの大都市における人々の居住環境について、調査・研究をしています。

中国語を学ぼう

中国語を聞いたことがありますか。中国語の音には日本語にはない音があるし、音の上がり下がり(声調)があります。歌だと思ってたくさん聞いて下さい。中国語を見たことがありますか。中国語は漢字を使うので、見ると分かりやすいですが、日本語と違う意味もあるので気をつけて下さい。中国語を読んだことがありますか。中国語

の文型は英語ほど多くないですが、文脈で語句の意味が変わることもあるので、たくさん事例に触れて、独特のリズムと感覚に慣れて下さい。中国語を学んでみてはどうですか。中国語を学んで中国に行けば、テレビや新聞の報道とは違う、様々な世界に出会えます。かの地の悠久の時の流れに身を置いてみてはどうですか。そこには日本のことを知りたがっている人がたくさんいます。中国の人と話してみてもいいですか。こちらが胸を開いて話しかければ、中国の人も必ず胸を開いて話しかけてくれますよ。



(国際地域学科教授 後藤岩奈)



海外研修



overseas training

昨年9月、国際地域学科3年生5人が、「国際協力論演習」のフィールドワークでボスニアに行きました。国際協力機構(JICA)による農業振興と観光開発分野のプロジェクトを研究対象として、プロジェクトに参加する地元住民、ボスニア政府・国連関係者、駐ボスニア日本大使・大使館などにインタビューを実施しました。90年代の内戦終結から16年経過し、サラエボ市内の建物の多くは弾痕が修復されるなど、戦後復興は進んでいるように見えます。しかし民族間の不信感根強く、地方の復興も一様ではありません。これらの諸問題に対する国

際社会の支援の効果を調べることが調査の目的です。現地での英語によるインタビューのために、各自で前期の間に研究テーマや仮説の設定、先行研究や報告書のレビュー、質問項目の練り上げなど準備をして臨みました。学生は当事者に対して直接「問い」をぶつけ、あるいは集団虐殺の現場など現地の状況を自らの目で見ることにより、後期以降の研究取り組み作業を行ううえで大きな知見を得たようです。(このフィールドワークの記事が、10月19日の朝日新聞に掲載されました。)

(国際地域学科准教授 渡邊松男)



国際地域学科 講師
福本圭介

Keisuke Fukumoto

私がいま最も興味があるのは、人間の想像力です。例えば、基地や原発のない世界を想像すること。非暴力の思想や運動に関心があり、本気でそのような世界を考えたいと思っています。小さな魂で、空や海を見つめながら、歩いてゆきたいです。



国際地域学科 講師
野本洋平

Yohei Nomoto

私の専門は生体医工学という分野です。三流ですが、やる気がおきない日でも頭を使ったり手を動かしたり、進展するように努力しています(お酒に逃げる日も多々ありますが)。今後もコツコツとがんばろうと思います。

私が出来る支援

～「南相馬市児童のための冬休み支援プログラム」に参加して～

子ども学科3年 白川 明加理

昨年の12月26日から28日までの3日間、福島県南相馬市の小学生70人が、新潟の冬を楽しむために柏崎市の県立こども自然王国にやってきました。私はそれに学生ボランティアとして参加しました。

子ども学科3年 白川 明加理
かりお姉ちゃんと呼ばれるようになりました。夜は一緒にお風呂に入り、7人並んで仲良く眠り、まるで6人の妹が出来たようで、私自身素敵な時間を過ごしました。

私が担当した子どもは1～6年生までの6名。その名も、ハートグループ。グループ名通り、元気で、明るくて、とっても可愛い女の子6人組でした。初めは「あかり先生」と呼ばれていた私ですが、プールやスケート、雪遊びなど、楽しい時間を過ごすうちに、次第に「あ

支援やボランティア、少し難しい言葉だけれど、私でも出来ることってどんなことでしょうか。この3日間、ただ一緒に遊んで、おしゃべりして、たくさん笑っただけ。しかしこの安心で楽しいかわりこそが、子どもの心を支援する上で大切なことだと実感しました。

幼稚園教育実習

幼稚園教諭一種免許状の取得にあたっては4週間の教育実習が必要です。新潟県立大学では、2年生で県立幼稚園における実習を合計2週間行い、3年生で実習協力園(新潟市及び新潟市内の公立幼稚園や私立幼稚園など15園)における実習を2週間行います。実習では、実習生なりに責任を持って子ども達との生活を送ったり、保育案を作成して保育を展開したりします。子ども達の笑顔やかかわることの楽しさ、幼稚園の先生方のご指導に支えられて、専門家となるためのたくさんの経験を積み重ね、自分自身を見つめ直し、一回りも二回りも成長する機会となっています。

今回は、2年次の幼稚園教育実習を体験した学生の手記を紹介します。

(子ども学科准教授 梅田優子)

子ども学科2年 熊谷香奈

私は昨年12月、県立幼稚園に1週間実習に行きました。その実習を終え、消えたものがあります。この大学を選び入学したものの、私には本当にこの道に進んでいいのか、こんな自分がここにいていいのか、という思いがありました。子どもは好きだけれど、その気持ちだけでは勤まらないと思っていたし、保育者になる具体的な目的を持たずに、漠然と講義を受けていました。実習に行くことに対しては関心が薄く、自信がなく不安だらけでした。

そんな気持ちで臨んだ実習でしたが、子どもたちと一緒に遊んだり考えたりするうちに、もっとこの子たちのことを知りたいとい

う自分の思いや、子どもたちのことを考えながら保育案を立てている自分に気づき、自分でも驚く程保育に対する意識が変わっていきました。実習が終わった時、以前あった迷いは消えていました。幼稚園実習は私にとって、将来を見つめこれからの学生生活に対する前向きな気持ちを持つ機会になりました。



国際地域学科 准教授
柳町裕子

Yuko Yanagimachi

ロシア語、ロシア文化、言語学などを担当しています。言語はコミュニケーションのためだけの道具ではなく、世界を理解し、考える手段でもあります。外国語を一つ学ぶと、その手段を一つ多くもつことができます。



子ども学科 准教授
小池由佳

Yuko Koike

専門は子ども家庭福祉。「子どもにとっての幸せって？」を出発点に福祉を学んできました。出身は関西。子どもが相手の時はいつも以上に関西弁。うちの娘(2歳)は関西弁になるか、新潟弁になるか？さあどっちだ?!

都市・地域デザイン演習

本演習は、国際地域学科地域環境コース3年後期の選択科目で、文系新領域に位置づけられる本学科の学生が地域振興の初歩的コーディネート能力を身につけることを目標としています。その教授法は、一言で言えばフィールド放任主義。今年度は「沼垂」という、あらかじめ教員が人的関係を結んでおいた、キャンパスから容易に通え、一見全国どこにでもありそうに見え、予見にまみれないまちに学生達を放り込む。自主的判斷で何度も現場に足を運び、地元の人に話を聞きながら自分自身でまちへの提案を自由に練り上げるというものです。その間学生達は、担当教員はもとより、まちづくりNPOの女性コーディネータ、地元のまちづくり組織のメンバーの前で週替りに発表を繰返し、厳しい批評を浴び、悩みながら自らのスキルアップを模索します。少なくとも今年度の1期生は、お互いに刺激・協力しあいながら、新潟県立大学生らしいフレッシュな提案集をまとめることができました。

(国際地域学科教授 山中知彦)



栄養教育実習

6セメスター(3年後期)に開講される本実習では、様々な年齢層の方々を対象にQOLの向上につながる食生活支援の在り方について、栄養教育のPDCAマネジメントサイクル[P;Plan(計画),D;Do(実施),C:Check(評価),A:Act(改善)]をもとに、学生同志の体験とおして学び合います。

1期生は、①共通(演習)課題と②選択(自主)課題に取り組みました。①共通(演習)課題では、全員が自らの家族を対象に実態把握から改善までを実践し、報告書にまとめました。現時点での総合的な学びの成果として、手作り教材等の作成をもとに学生の皆さん各々が達成感を味わえたようです。

主体的に関わる1テーマを選択し、グループ内・間の連携・協働のもとに、①同様に取り組んだ②選択(自主)課題から、2例を紹介しましょう。

幼児期の栄養教育:新潟県立幼稚園ならびに新潟調理師専門学校と(株)総合フードサービスの関係各位の皆様のご協力を得て、おやつとお弁当を活用した2回の実習に取り組みました。集団および個人栄養教育をおとして、小児生活習慣病予防につながる支援の重要性を体感できたようです。



学生の皆さん一人ひとりが、聴く力・話す力・関わる力を育み合い高め合い、これらの貴重な体験を後輩へ伝え、感謝の念を抱きつつ社会に貢献できる日を楽しみに待ち望み、海老ヶ瀬キャンパスの研究室の窓から、学生の皆さんの様子を眺めています。

(健康栄養学科准教授 太田 優子)

高齢期の栄養教育:老人デイサービスセンター江東園の職員および利用者の方のご協力のもとに、聞き取り調査およびミニ栄養教室をおとして、人生の先輩に対して尊敬をもって関わることの大切さなど、多くを学び合えたようです。



子ども学科 教授
石本勝見

Katsumi Ishimoto

大学教員になる以前は福祉の現場で約30年仕事をしてきました。人間は発達し続けるものです。それには他者とかかわる経験が大事です。自己の成長発達には他者が必要です。だからこそ「共に生きる」ことが必要なのです。



健康栄養学科 准教授
立山千草

Chigusa Tateyama

現在、「人間と食べ物とのかかわり」を多様に理解することがますます重要となってきています。人間が健康でより豊かな生活を築いていくための食べ物について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

旅先のピザ

小谷一明

ミネソタという州をご存じでしょうか。米国の中央部で最も北にあり、冬はとつてもとつても寒い場所。その州都セントポール市で冬に(!)新潟県立大学の研修が行われます。息を吸えば肺が凍るような早朝に、「太陽の犬」に遭ったことがあります。英語名「サンドッグ」。太陽の犬の散歩?かどうかはわかりませんが、太陽の周りに不思議な光輪が付いている。前日の夕食の残りであるピザを食べながら見とれていた、いつの間にかアイス・ピザになっていました。



ウィーンのカフェめぐり

小澤薫

ウィーンと言えば「ザッハートルテ」。しっとりとしたスポンジをチョコがコーティング、それにホイップクリームが添えられている。店によっては、ケーキよりもクリームの量が多く、「こんなに必要?」って思ったら、チョコの甘さについてクリームが進みます。カフェで向かいに座っていた地元グループのところには、大きいボールに山盛りのクリームがドカッと……。これが日常……。カフェには、朝から色鮮やかなケーキが目移りするほど並んでいます。朝食をとろうと入った所で、思わずケーキも注文。周りもけっこう朝からケーキを食べています。オレンジ風味のスポンジをダークチョコでコーティングしたトルテが、私にとってはこの旅の一番でした。歴史ある建物、高級感のあふれるきらびやかな内装など、入るだけで心地よい

カフェがたくさん。犬を連れて、一緒にコーヒーも飲める。飼い主の飲み物にあわせて、犬用の水飲みも運ばれてきて、犬はおとなしく飲んでいる。そんな日常。ふりかえると10日間の滞在で、ふたりで15個のケーキを食べていました。しばらくチョコ・ケーキは控えます。でも、また食べに行きます。



図書館紹介



大学生になるとレポートや論文を書く機会が増えますが、図書館資料を利用することでレポート作成に必要な資料の収集がサクサクと進みます。また、図書館はネットワーク環境が整っていますので、図書館の膨大な資料を検索するためのOPAC(蔵書検索システム)や電子ジャーナル(オンラインで読むことができる学術雑誌)、新聞記事データベースの活用も情報収集に役立ちます。そして資料の探索に行き詰まった時は、図書館員に助けを求めましょう(help!)。サポート(レファレンスサービス)が受けられます。

図書館の資料は調査研究用だけではなく

DVDでロシア語、中国語、韓国語、英語の映画を楽しみながら外国語を習得できますし、絵本は子ども学科の学生が実習用によく利用しています。人気の小説も置いてあります。

図書館ホームページにある新潟県地域共同リポジトリには郷土の研究に役立つ資料が多く載っていて、インターネットを利用できる環境であれば誰でも手軽に読むことができます。

図書館は大学の中心に位置していてドーム型の屋根が印象的です。館内は明るく落ち着いた雰囲気があり、学生が勉強や読書の時間を過ごしています。



子ども学科 准教授
伊藤巨志

Kiyoshi Ito

朝型生活実践派の伊藤です。午前5時過ぎは寝過ぎた〜の日々を送っています。子どもに早寝を習慣づけるため率先して寝ていたおかげです。朝の空腹感による「グレリン」分泌。これが良い。「グレリン、空腹」で検索!



健康栄養学科 准教授
村松芳多子

Kanako Muramatsu

「微菌」。何と読むかわかりますか? 「バイキン」と読みます。微(かび)と細菌を指します。毎日食べている食品にも多くの菌がついています。普段食べている食品とその栄養、および微生物のことを学んでみませんか。

President's Message to incoming Students

University of Niigata Prefecture welcomes all of you to Ebigase, Niigata!

The whole purpose of education at the University is to help you to design your life and to assist you to acquire the strength to live through your life from now. I would like to see young men and women to obtain energy and courage on the one hand and to nurture curiosity and ambition on the other. I would like to see each of you to bloom where you are planted.

Takashi Inoguchi
President
University of Niigata Prefecture



国際協力ワークショップ

2011年11月7日、東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科主催の『国際協力ワークショップ』にて、猪口学長が講演しました。このワークショップは、「私の勉強法・研究法 公開します」をテーマにした公開オムニバス講義です。猪口学長は「政治学と国際関係論の方法」というサブタイトルに基づき、好奇心、集中力、持続力の三点に焦点をおいて講演しました。

東京キワニスクラブ 第54回国際懇話会

2011年11月21日、社団法人東京キワニスクラブより依頼を受け、第54回国際懇話会におきまして猪口学長が講演しました。この懇話会は、キワニスクラブの会員とともに時の国際問題について、講師と活発な議論を交わす場となっています。今回の猪口学長のテーマは『東アジア情勢と日米関係』でした。

The Japan-U.S-China Triangle

2011年12月11日、12日、国際文化会館において、『The Japan-U.S.-China Triangle: the Key to the Peace and Prosperity to the 21st Century』を開催しました。国際交流基金日米センター、村田学術振興財団の後援により、日・米・中の三ヶ国から研究者を招聘し、21世紀における三ヶ国間の平和と繁栄への鍵を、安全保障及び経済関係の面から討論・発表を行いました。猪口学長と本学からは国際地域学部の藤井誠二講師も参加しました。発表内容等については、今後英文で刊行する予定です。



健康栄養学科 助教
神山 伸

Shin Kamiyama

本学の開学とともに健康栄養学科の教員になりました。生体分子の機能に「多様性」を与える糖鎖を研究テーマとしています。グローバルな時代こそ、多様性を重視した人材の育成が大切であると考えています。



健康栄養学科 助手
安藝真里子

Mariko Aki

栄養や食生活の話は身近ではありませんが、一方で正しい情報を見抜くことが難しくもあります。食の専門家として、日常であふれている情報の中から正しい情報を選択できる管理栄養士を目指してみませんか？



在学生のみさんにたくさん記事を書いてもらって、新潟県立大学広報誌第6号が完成しました。元気な学生が多彩な活動をくりひろげている新潟県立大学です。読者のみなさんもお好きな時にお訪ねください。教職員も学生もともども、大歓迎いたします。表紙写真を提供していただいたのは、カメラサークル「スイッチ」の有明智美さんです。有明さんにはイラストもいただきました。ありがとうございます。

■ 連絡先

新潟県立大学

〒950-8680
新潟市東区海老ヶ瀬471番地
TEL:025-270-1300
FAX:025-270-5173
E-mail:unp@unii.ac.jp

新潟県立大学 東京サテライト

〒113-0024
東京都文京区西片1丁目17番8号 KSビル9階
TEL:03-5803-6955
FAX:03-5803-6971
E-mail:unptokyo@unii.ac.jp